

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	目黒区立げっこうはらこども園
所在地	目黒区目黒本町4-15-3

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

からだ

<テーマの設定理由>

令和2年度から研究を継続している「足育」で、靴を正しく履き、心も体もたくましく「やってみよう」とする幼児の育成を目指してきている。そのため、幼児にとって身近であるとともに、全ての活動の資本である「からだ」をテーマとすることで、幅広く遊びや生活に関わる様々な事象への興味・関心を深めることができると考えるため。

### 2. 活動スケジュール

- (1)裸足遊び（裸足での感触遊び、運動遊び）（毎日継続して行う）
- (2)好きな遊びを楽しむ中で、多様な動きを楽しむことができる自分なりの遊びを生み出す。（週1回程度）
- (3)多様な体の動かし方ができる運動遊びを通じてスポーツや体の動かし方について考える。（月4回程度）また、外部講師を招聘し指導を受ける（2月実施）
- (4)健康指導、安全指導、給食指導を通して体の健康について考える（月1回程度）
- (5)身体足測定をきっかけとし、体が大きくなることや体の造りなどに興味をもち、探究する（学期に一度）
- (6)プール遊びをきっかけとし、早く泳ぐことや水に浮くこと、水の中での身体の動かし方に興味をもち、探究する（6月～9月）
- (7)世界陸上をきっかけとし、走ることや運動することに興味をもち、探究する（9月～10月）また、外部講師を呼んで指導を受ける（10月実施）
- (8)園外活動の経験から足や体のつくりについて考える（9月～11月頃）
- (9)障害者スポーツに触れる機会をつくり、障害者スポーツや障害者理解などに興味をもち、障害者スポーツ関係者を招聘し指導を受ける（3月実施）
- (10)その他適宜幼児の興味から探究活動を始める。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

共通…モニター・スクリーン・プロジェクター・タブレット・P C・ポータブルデッキ・ボイスレコーダー・インクカートリッジ・画用紙・文房具・教材（絵の具、筆、サインペン等）

- (1) …感触マット・タオル・砂場
- (2) …巧技台・ウェーブバランス・トランポリン・ミニハードル・ラダー
- (3) …巧技台・運動棒・マット
- (4) …絵本・図鑑
- (5) …身長・体重計・足測定器・フットプリンター・砂・紙テープ
- (6) …プール・廃材（白色トレイ・プラスチックカップ等）
- (7) …地球儀・世界地図・ストップウォッチ・メジャー
- (8) …図鑑・人体模型・ルーペ・万歩計
- (9) …外部講師
- (10) …（活動④で使用したもの）鏡・図鑑・ルーペ・懐中電灯

### 4. 探究活動の実績

#### <活動の内容>

#### ①速く走るための探究 ～世界陸上をきっかけに～

2025年世界陸上開催にあたり、年中組で100m走世界記録の動画を見たことで、幼児が選手のように速く走ることを目標とし始めた。「100mがどのくらいの長さなのか」を予測したり、「速く走るための動き」「筋肉を付けるための食事」など、興味をもった事柄について幼児なりに考え、調べたり、試したりして探究した。そして、講師を招聘し、速く走るコツを教わるという活動につながった。

#### ②楽しく安全な園外保育のための探究 ～地域への関心や異年齢児との関わりを通して～

年中組の園外保育をきっかけとし、自分たちが歩いた距離や長い距離を歩くことに興味・関心をもち始めた。園周辺の地図（紙ベースの物や学習用情報端末のアプリ）を見て、園からの距離や行ったことのない場所などに興味を広げ、考えたり、調べたり、実際に行ってみたりして探究した。年少組と一緒に出掛けるのに適した公園を考え、近隣の公園の特徴やよさについて考えを出し合い、話し合いを行った。

#### ③プール遊びにおける探究 ～「水中ドーナツ拾いゲーム」を通して～

預かり保育でのプールにて、浮遊性のあるウレタン素材のリングをドーナツに見立てて足でつかみ取る遊びを行い、水の中で自分の身体をどのように動かすとリングを取れるか考えたり試したりして楽しみながら、幼児なりに工夫や挑戦する姿が見られた。

#### ④体の不思議への探究 ～「血管見付け」を通して～

年中組の幼児が自分の手に見える血管の数が左右で違うことに気付いたことをきっかけとして、体中の血管を探して遊ぶ「血管見付け」を楽しみ、自分の体をよく見たり、友達と比べたり、体のつくりについて調べたりして探究した。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

①速く走るための探究 ～世界陸上をきっかけに～

・100mの探究（世界陸上、世界記録から）

世界陸上開催前週、ウサイン・ボルト選手の100m走世界記録の動画を見せる。「筋肉モリモリじゃん！」と体の大きさに注目する幼児が多かった。「100mを9秒で走る」ことのすごさを幼児の実感につなげるために、100mがどれくらいの長さだと思うかを幼児に投げかけ、幼児の予想を元に様々な場所を測定した。幼児の当初の予想は「保育室の端から端まで」であったが、実際には「8m」と分かり、「こっちは！」「ここならどう？」とテラスや園庭など、より広い場所を自分たちで考えて探すようになる。測定して、少しずつ大きくなっていく数字に「ここは0m！」と友達と調べて伝え合っていた。ある日、小学校体育館を測定すると「50m」で「100m」には満たないものの、これまでで最も長い距離であったため、幼児たちは喜んで「走りたい！」とすぐに走り出し、「100m」への好奇心と「100m」を走ることへの興味が、さらに大きくなった。

数日後、より広い場所を求め、小学校校庭に行くことにした。トラックに沿ってメジャーを押さえながら幼児と共に測定していると、「これが『50(m)』だって！」「『70(m)』いった」と、「100(m)」に到達するか、ワクワクしていた。そして、ついに100mを測ることができると、幼児は喜んですぐに走り出し、繰り返し走ることを楽しんだ。普段、体を動かす遊びに消極的な幼児も、「100m」を発見した嬉しさからか、何度も走る姿が見られた。

そこで、タイムを測ってみることにした。25～35秒ほどかかる幼児が多く、9秒には程遠いが、試しに幼児にタイムを伝えてみると、数字を伝えられることに意欲を示し、実際には早くなっていないのだが「さっきよりも速くなった」と喜び、意欲的に繰り返し走る姿につながった。

・筋肉をつけるための探究

動画を見た後、「筋肉をつけるためには、肉を食べるといい」という幼児の言葉をきっかけに、絵本や図鑑で様々な食材の写真を見たり、友達と知っていることを伝え合ったりして、「筋肉モリモリメニュー」を考える。栄養バランスや食材への正しい知識を元にメニューを考えるというよりは、本を見ながら好きな食材を自分なりに描くことを楽しんでいたが、考えたメニューを栄養士に伝え、3色の栄養群や、バランスよく食べる大切さを教えてもらい、「筋肉モリモリになるために」と意欲的に給食を食べる幼児が増えた。

・早く走るための探究

100mのタイム測定から、「速く走る」ことに意欲をもち、繰り返し走って遊ぶ幼児が多いため、教師がどうすると速く走れるか問うと、「足を大きく動かす」「足を早く動かす」「足がお尻に付くくらい強く蹴る」など、幼児なりに考えたことを言葉にする。そして、友達の考えを試してみたり、「これではあんまり速く走れない」と改めて自分なりに考えたりしていた。また、選手の真似をしてクラウチングスタートで走ろうとする幼児が多かったため、教師がスタートの仕方に着目させると、「なんか走りづらい感じがする」「こっちの方が（立っているから）すぐ走り始められる」とスタンディングスタートを試してみる幼児もいた。さらに、「速い人に先に走ってもらって追いかけて走る」「本気で走る」など動きだけでなく、走る時の環境や気持ちを考えて試す幼児もいた。

2025年世界陸上の動画を見る中で、ボルト選手と同じジャマイカの選手の活躍を知ると、「ジャマイカの人に走るコツを聞けばいい」「お兄ちゃんが速く走れるから、コツを聞いてみる」などと話す幼児がいた。そこで、“かけっこ博士”として講師を招聘することにした。幼児はこれまでに試したことを話したり、速く走るための方法を質問したりし、「手はパー、カクカク90度」というポイントを教わり、実際に走ってみることを楽しんだ。実際に変容が見られる幼児も、そうでない幼児もいたが、「講師のように(講師よりも)速く走りたい」といきいきと走っていた。

継続して2025年世界陸上の動画を見ていたところ、選手がスタート前に高くジャンプをしてアップしている様子に驚く。「高くジャンプできると走りが早くなる」「走るには足のパワーが大切」と考えた幼児たちは、走る前にジャンプをしたり、ジャンプそのものを練習したりするようになる。次第に、世界陸上では、選手がそれぞれの方法でアップしていることに気づき、スタート前に、スタートダッシュの練習や、手足首の体操、その場での駆け足、頬を叩いて気合いを入れることなど、自分たちなりのアップをして走るようになり、運動会当日は、自分たちが考えたアップをし、世界陸上さながらに走ることを楽しんだ。

## ②楽しく安全な園外保育のための探究 ～地域への関心や異年齢児との関わりを通して～

### ・距離を知る探究の種から、地図と距離に親しむ探究へ

林試の森公園にドングリ拾いに行くことにし、ドングリの種類によって落ちている場所が異なること、どこまで行くかで400mの差があることを幼児に伝え、公園内の行き先を相談すると、多くの幼児が大きなドングリが落ちている奥まで行きたいと話し、片道約1300mを歩くことに意欲をもつ。当日は、道中で何度も「今何m?」と歩いた距離を教師に確認したり、「あと400(m)か。まだパワー80(%)くらい残ってる」「あと100(m)ってことは30歩くらい?」などと話したりし、様々な表現で距離への興味を示しながら歩く姿が見られた。

園外保育の翌日、保育室に園周辺の地図を掲示すると、友達と一緒に、知っている公園を見付け、大きさを比較したり、「1000(m)でもまだ着かなくて…、1100(m)でもまだ着かなくて…」と、教師が園外保育に行く前に話した時の真似をして地図をなぞりながら、自分たちが歩いた距離を確認したりしていた。また、自分の家の場所を知りたがる幼児が多かった。しかし、目印になるような家の近くの公園や施設を知らないため、家の場所が分からない様子が見られた。そこで地図に住区の分け書きを足し、幼児それぞれが、どの住区に住んでいるのかを知らせた。すると、自分の家のおおよその場所が分かり、「私の家はこの辺」などと友達に話しながら一緒に地図を見て楽しんでた。さらに、並行して学習用情報端末の地図アプリを活用して幼児が知っている道や建物の写真を見るなどして、地域への興味・関心を深めた。

### ・年少組と行く公園を考える

年少組を公園に連れて行くことを計画する中で、年少組をどの公園に連れて行きたいか問うと、それぞれに親しみのある公園を挙げるが、年少児には遠い公園も含まれていた。そこで、教師が距離のことをつぶやくと、園から近い「清水池公園」「清水町児童遊園」がよいと言う。しかし、「清水町児童遊園」には、学級で行ったことがないため、下見に行くことにした。

下見後、「滑り台」「ブランコ」「黄色い落ち葉」などが年少組も楽しめそうとの考えが出た。教師は、どちらの公園にもそれぞれの魅力があることを認めながら、「清水町児童遊園」の傾斜の急な滑り台について投げ掛けてみた。すると、幼児なりに年少組と安全に遊ぶための方法を考えていたが、現実的には難しい方法が多く、より安全な滑り台がある「清水池公園」に行くという意見がまとまった。「でも(清水町児童遊園にある)『黄色い落ち葉』は年少組にも危なくないよ」と話す幼児もおり、近隣の公園の魅力を実感する機会となった。

当日は、年少組と楽しく安全に公園で遊び、満足そうな表情が多く見られた。

### ・行ってみたい公園に行くための探究

保育室に近隣の公園の遊具の写真を掲示したところ、幼児同士で写真を見ながら行ったことがある公園について話すことが増える。そして「油面公園」の遊具に魅力を感じ、「行きたい！」と言う幼児が多く、学習用情報端末の地図アプリで公園までの道順を見ていくと、「ここ知ってる」「この間通った」などと言う一方で、「何？この道」「知らない道だ」と、知らない道を通ることや遠い場所にあることに気付き、自分たちで歩いて行けるかどうか話し合い始めた。行ったことがある幼児も「自転車でいった」と言い、「バスじゃないと無理じゃないかな？」などと考えていた。実際の距離を調べると、1400mであった。「1400（m）は無理かな」と話す幼児と、「歩けるよ、（前に）1300（m）歩いたから」と話す幼児がいたが、「行ってみたい」という気持ちが強く、実際に行ってみることになった。

当日、知らない道に入ると「わぁ、知らない道だ…」と期待と緊張を感じている様子が見られたが、復路では「こっちに行くんでしょ」「もう分かったよ」などと話し、道順に興味をもったり、初めて知った道に嬉しさを感じたりしながら、意欲的に歩く幼児の姿が見られた。

後日、地図を見ながら「（今まで行ったことがある場所の中で）油面公園が一番遠い」「意外と（疲れが）ギリギリって感じだったね」などと話す姿が見られ、遠くまで歩いて行けたことで、自信をもっている様子が見られた。

### ・万歩計を付けて生活する

歩数にも興味を示していたので、幼児が好きな時に万歩計を着けて生活する。万歩計に表示される数字が増えることを喜び、走ったり、ジャンプしたりし、運動の意欲につながっている様子がある。しかし、表示される数字が大きい（1000～5000）ため、認識には結びつかず、「今日はたくさん歩いた」などの実感につながりづらい実態もある。

### ③プール遊びにおける探究 ～「水中ドーナツ拾いゲーム」を通して～

足の指でリングをつかむ「水中ドーナツ拾いゲーム」をする。年長児Aは初めから「できないから、やりたくない」と消極的で、他児も、足の指ではなく、手を使ったり足に引っ掛けたりしてリングを取って楽しんでた。しかし年長児Bは「足の指でつかむ」ことに一生懸命取り組み、両足を使うとともに、壁をうまく活用してリングを安定させて成功した。

教師は、年長児Bが工夫しながらリングをつかむ姿を他児に見せ、「どうしてBちゃんは成功したんだろう」と問うと、年中児Cが「壁を使って、（リングを）押さえてるんじゃないかな」と話した。

次の挑戦が始まると、足の指でリングをつかもうとする幼児が増える。年中児Dは片方の足でリングを床に押さえつけながら浮力を生かしてリングを立たせることで、もう片方の足の指でつかめそうになることに気付き、繰り返す。また、年中児Eは何度も試す中で、片方の足でリングを壁に寄せ、もう片方の足の指でリングの向きを変え、リングをつかみやすい位置にしようとする。その際、自分の体を安定させるために、プールの壁を手で掴む姿が見られるようになる。みんなが様々な工夫をして挑戦する姿を見て、やりたくないと言っていたAも取り組み始めた。Cは「壁につけるといいんだよ」「床につけてもいいかな」などつぶやきながら、何度も繰り返すが、なかなかつかむことができない。しばらく続けるが成功しないCの姿を見て、他児が集まり、応援するようになった。

翌日、Eは、昨日と同様にプールの壁に片手をつけて体を支え、リングを水中の壁に押し付けて安定させながらつかもうとする。試行錯誤を繰り返し、とうとうリングをつかむことに成功すると、他児や教師から拍手をもらい、満足げな表情を見せた。

#### ④体の不思議への探究 ～「血管見付け」を通して～

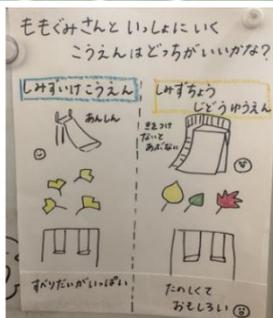
1 1月の給食時、ある幼児が「ねえここに線がない？」と指に見える血管に気付く。自分の左右の手を見比べて「ここにはあるけど、こっちにはないんだよ。あ、ここにはあった」「こっちの手は2本だけど、こっちの手は3本だ」と、血管が見えることや見え方の違いなどに気付き、不思議そうに眺める。隣にいた幼児から「ここに血があるんだよ」と教えられ、他児も「血管」という言葉や、血が流れていることを知った。友達と見比べたり、足にもあることを思い出して話したりする中で、「お腹はないでしょ～！」「たぶん、お腹はご飯とか入ってくるところだからさ」と、どこまで血管が続いているかを予想していた。

食後、血管の場所や数を書き込めるように、人の身体の絵を描いた紙を用意すると、3、4人の幼児が集まり、「なんか私、（からだの）全部に血管があるみたい。手も足も首も」などと話しながら、互いに見合っって血管を描き込んでいた。その後、腹部や背中を調べると、手足は血管がよく見えるのに対して、腹部や背中は見えない（見えづらい）ことに気付き、「手とか足とかにあるんだね」と話していた。幼児の予想を元に体の様々な場所の血管を探すと、耳に細かい血管がたくさん見えることに気付き、次々と目や舌、歯など体中の細かい部分まで見て調べようとする姿が見られた。

しばらくすると、ある幼児が興奮気味に「大発見！びっくりすることがあるよ！」と言って、舌の裏側にある血管に気付く、それが予想外であったことや、その見た目の不気味さを面白がり、教師や友達に見せた。他児もその発見を面白がり、よく調べると予想外の発見がある、ということを楽しみ、体中の「血管見付け」が3日ほど継続する。

その後血管を調べる姿は見られなくなっていったものの、1月に体に関する図鑑が届き、歯の断面図のページを見ていた幼児が「待って！？歯にも血管あるの？」と驚く。すると、他児が「あるよ、だって歯が抜けた時、血が出たよ」と話し、歯にも血が流れていることを知った。また、舌の奥の組織のページでは、「気持ち悪い」と言いながらも面白がって、鏡で口内をじっくりと見ようとする姿が見られた。その中で、「これ、のどちんこだよ」など知っていることを話したり、「ここだけ赤いのなんでだろう」などと、体の不思議を感じたり、友達と見せ合ったりすることを楽しむ姿が見られた。さらに2月、保育中に友達の歯が抜けた時には、「見せて！血出た！？」と友達の口の中を覗き込み、歯に血が流れていることを実感する幼児の姿が見られた。

#### <活動の様子>



## 5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

### ①速く走るための探究 ～世界陸上をきっかけに～

- ・世界陸上選手や講師などの憧れの存在や、「速く走る」という具体的な目的をもつことは、幼児なりに真似してみる、試してみる、考えるという探究活動につながった。
- ・幼児の興味に即して、目的につながるような投げかけを行うことや、考えたことをすぐに試せる環境の構成が重要である。
- ・タイムの変化は幼児にとって分かりやすい一方で、動きを意識するとタイムが遅くなることも多く、速く走る方法と実際のタイムの変化を関連させながら探究を進めることには難しさがあった。

### ②楽しく安全な園外保育のための探究 ～地域への関心や異年齢児との関わりを通して～

- ・「m」という単位や響きになんとか親しんでいるものの、長さよりも歩数の方がより身近で距離を感じやすいことが推測される。
- ・幼児が日常的に見える場所に地図や写真を掲示すると、好きなタイミングで2～4人ほど集まって考えを出し合う姿が見られ、幼児なりの興味に基づいた探究につながりやすかった。
- ・数字で表すことは幼児にとって距離を比べやすい一方で、実感にはつながりにくかった。

### ③プール遊びにおける探究 ～「水中ドーナツ拾いゲーム」を通して～

- ・足指を使った遊びには普段から取り組んでいるが、「浮かぶリングを足指でつかむ」という動きは、経験が少ないことから幼児によっては難しく、幼児の意欲につながりにくい様子も見られたが、成功した年長児の姿を実際に見たことで、「自分にもできるかもしれない」という期待がもてるようになり、水の中での体のバランスの取り方や身のこなし、どのように自分の体を動かしたらリングを取れるかななどをそれぞれが考え、前向きに取り組む姿につながった。
- ・じっくり取り組むことができる時間を保障したことで、安心して繰り返し挑戦する姿につながり、幼児なりの工夫や刺激の受け合いが生まれた。
- ・年少児には今回のリングの太さでは足指でつかむことが難しかった。太さの異なるリングや、様々な形や素材の物を用意すると、幼児がより多様な動きを考え、工夫することにつながると考える。

### ④体の不思議への探究 ～「血管見付け」を通して～

- ・「自分の体」はどの幼児にとっても興味につながりやすく、試したり、調べたりすることもその場でできるため、次々と疑問をもち興味が広がる様子が見られた。
- ・自分の体は、よく見ると不思議な見目をしているなどの意外な発見があることが幼児にとって面白く感じられたと考える。幼児自ら問いや疑問もち、興味を広げて、探究していく姿が見られた。

以上